

# 没後百年 南画の真髄 田能村直入展

～ 直入と丹波地方の門人たち～

2007年6月2日(土)～7月29日(日)



～ 没後百年のときを超え、  
今もなお悠遠に流れ続ける  
直入 南画の真髄がここに～



田能村直入 (1814 - 1907)

岡藩藩士の三男として現在の大阪府直入郡竹田寺町に生まれた直入は、9歳にして田能村竹田に師事し、幼少のころからその才能を認められました。

以降、その画業は南画に入って南画に終わるといわれるように、江戸時代、中国・明清の文化を学んだ文人たちによって確立された南画を堅実に継承し、さまざまな技法を駆使し、精力的かつ精巧な色彩表現によって、真の南画の伝統を伝える者として南画史にその名を残しました。

また、京都に南画を伝えたといわれる直入は、明治元年、55歳のとき京都に定住し、京都画壇の繁栄に深く関わる中、明治11年には、当時の槇村府知事に画学校創設を陳情し、京都府立画学校（現在の京都市立芸術大学）を開き、初代校長を務めるなど、晩年には南画の真髄を伝えるべく、多くの弟子の育成にその身をささげました。

一方、直入に20年にわたり師事した安田鴨波は、直入のもとで文人画の精粹を極め、後継者として直入から強く望まれましたが、“その器に非ず”と固辞し、出生地である丹波に戻り地域文化の高揚のため、鴨波も多くの弟子に南画精神を伝えました。鴨波の才能を惜しむ直入は、度々来丹し共に詩画を楽しむ、鴨波もまた恩師のために度々画会を開くなど、その師弟関係は終生深く続いたといわれています。

本展では、明治40年に直入が亡くなってから100年になる今年、田能村直入の屏風、軸を中心に約70点そのながれをくむ丹波の文人の作品約20点を合わせて展示し、直入「南画の真髄」を一堂にご紹介します。

田能村直入 / 梅花書屋図 劉静甫詠梅花詞図  
出光仏図 蘭菊高渚図 福祿寿図  
蓬萊仙覺図高砂翁婦図

主催/丹波市教育委員会、丹波市立植野記念美術館  
後援/兵庫県教育委員会、NHK神戸放送局、サンテレビジョン  
朝日新聞社、産経新聞社豊岡支局、毎日新聞社、  
読売新聞社豊岡支局、神戸新聞社、丹波新聞社、

開館時間 午前10時から午後5時（入館は午後4時30分まで）  
休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）  
入館料 大人500円、学生300円、小・中学生200円  
（ココロカード利用可、20名以上団体割引）

丹波市立 植野記念美術館

丹波市氷上町西中615-4 TEL0795-82-5945

<http://edu.city.tamba.hyogo.jp/ueno/>

丹波地方の門人たち

安田鴨波・安田栗郷・安田虚心  
田中銀龍洞・田艇吉・石井霞香  
松井拳堂・上井寛圓・佐野柏葉  
谷口栗谷・和田賢龍他

